



ホロコースト記念館

「平和をつくりだそう、小さな手で」

ホロコースト記念館は、1995年6月、日本で最初のホロコースト教育センターとして開館し、2007年10月新館を建て再スタートしました。ナチス・ドイツ政権下(1933~1945年)のヨーロッパで、ただユダヤ人であるという理由だけで600万人の生命が奪われました。

その中には150万人の子どもたちがいました。彼らは、全ての人間の権利を奪われ、ガス室などで無惨に殺されてしまいました。

記念館では、「ホロコースト」の事実、特に当時の子どもたちのすがたを通して、ホロコーストを学びます。展示室には世界40カ国から寄贈された遺品や写真の展示、アンネの隠れ家の再現、オットー・フランクさんのタイプライターなどがあります。ホールではビデオ上映、ライブラリーや子どもの部屋ではホロコーストの書籍やDVD、絵本などの閲覧が出来ます。

屋外には「アンネの形見のバラ」や、アンネが隠れ家から見ていたマロニエの木の二世が植えられています。

ホロコースト記念館では、「差別、偏見をなくし、平和をつくるために何ができるか」を学ぶセンターを目指しています。



アンネが隠れ場から
見ていたマロニエの木の二世（ホロコースト記念館前庭に植樹）



オットーさんと出会って

1971年4月、私が合唱団の一員としてイスラエルを訪問中、アンネの父オットー・フランクさんと偶然出会いました。オットーさんは、同年「アンネの形見のバラ」を贈ってくださいました。

亡くなられる前に、「アンネをはじめ150万の子どもたちに、ただ同情するだけではなく、平和を作るためには何かをする人になって下さい。」と語られ、平和のバトンを渡してくださいました。

記念館はアンネと父オットーさんの心が今に生きられた所です。ここを訪れる皆さんが、

- (1) 当時の子どもたちの姿や、その中で抱いていた希望に思いをはせ、
- (2) 「なぜ、このような悲劇が起こったのか。」を考え
- (3) 全ての人間に等しく与えられている権利や、命の尊さを学び、
- (4) 「平和をもたらすために、私には何ができるか。」を問いかけて下さることを願っています。



アンネの父 オットー・フランクさん



『アンネの日記』の著者 アンネ・フランク

ホロコースト記念館館長 大塚 信

ホロコースト記念館

開館時間：10:00～17:00

入館は16:30までにお願いします

休館日：日・月曜日、祝祭日

8月13日～16日、

12月27日～1月5日

*団体の方はご予約下さい。

*入館無料

〒720-0004 広島県福山市御幸町中津原815

TEL&FAX 084-955-8001

ホームページ：<http://www.hecjp.org>

E-Mail: hecjp@urban.ne.jp



JR福山駅から
*JR福塩線横尾駅下車 徒歩15分
*中国バス1番乗り場（府中行き）
横尾下車 徒歩15分
*タクシーで15分

山陽自動車道：福山東IC下車、東城方面へ
中国自動車道：東城IC下車、福山方面へ

お電話いただければ詳しくご説明いたします。

ホロコーストとは

「ホロコースト」とは、ギリシャ語で「火で焼かれたいけにえ」を意味します。17世紀末には「大虐殺、皆殺し」を意味するようになりました。現在では「ナチス・ドイツ(1933~1945年)による、600万人のユダヤ人を中心とした大量虐殺をあらわす言葉」として知られています。

ホロコースト記念館の特徴

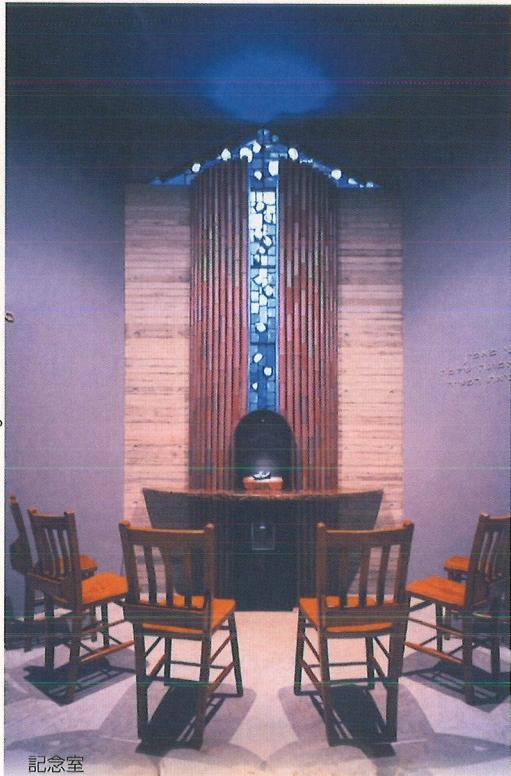
- ホロコーストの子どもたちの写真を中心に展示しています。
- アンネの隠れ家を再現しています。（常設展示として世界で初めて）
- アンネの日記の精巧なレプリカを展示しています。（アンネ・フランク・ハウス製作）
- アンネのバラ園とアンネの銅像があります。
- ゲットーのコーナーでは実際に使われていた煉瓦も使って壁を再現しています。
- アンネが隠れ家で見ていた「マロニエの木」の種から育てた二世の木が植えられています。

主な展示品

- 幸せだった頃の子どもの写真
- アンネの隠れ家の模型
- アンネの日記のレプリカ
- ガス室に消えた子どもの靴
- 強制収容所での服
- ビルケナウ収容所のジオラマ
- アウシュヴィッツ収容所の灰と遺骨
- フランク家ゆかりの品
- オットー・フランクさん（アンネの父）愛用のタイプライター



メイン展示室



記念室



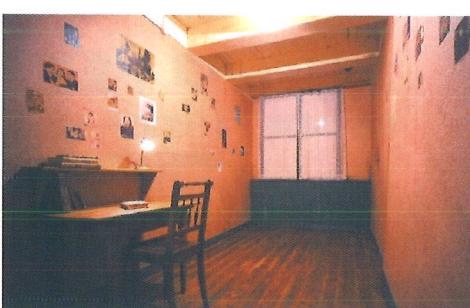
ガス室に消えた子どもの靴



スマールハンズの活動

ホロコースト記念館の歩み

- 1995年6月 開館、アンネフランクの親友ハナ・ピックさん来館
- 1996年6月 開館一周年記念式典、米国国立ホロコースト記念研究所長マイケル・ペレンバウム教授来館
- 1998年4月 こども平和賞「つたえたい、わたしの平和メッセージ」募集
- 1999年9月 日本ホロコースト子ども会議'99、生還者ヤッファ・エリヤフ教授来館
- 2000年1月 第2回国際交流奨励賞受賞
6月 ホロコースト子どもフォーラム2000、生還者ベニアミン・アノリックさん来館
- 2002年11月 ホロコースト・ミュージックフォーラム2002、生還者トバ・ベンツヴィさん来館
- 2003年7月 Small Hands第1回アメリカ研修旅行
- 2004年2月 Small Hands「第6回国際交流奨励賞」を受賞
- 2005年6月 開館10周年記念の集い
アンネのいとこバディ・エリアスさん夫妻来館
- 2006年3月 Small Hands第2回アメリカ研修旅行
- 2007年9月 新ホロコースト記念館開館
- 2009年8月 入館者10万人に到達
- 2011年1月 「アンネのマロニエの木」植樹
7月 こども平和賞「つたえたい、わたしの平和アイディア」募集
- 2013年7月 「子どもピース・フォーラム2013」開催
- 2014年3月～2016年3月 アンネ・フランク生誕85年「アンネ・フランク展 希望の未来」全国巡回展示
- 2015年3月～4月 Small Hands第3回アメリカ研修旅行
- 2016年6月 入館者15万人到達
- 2018年2月～2020年3月「『暗やみに光を灯した人』杉原千畝展」全国巡回展示
- 2019年9月～2021年3月「『子どもの教育と人権の父』コルチャック展」全国巡回展示
- 2020年1月～2月 開館25周年記念公開セミナー開催



アンネの部屋

主な活動

編集セクション：新聞「小さな手」を年2回発行しています。

バラセクション：「アンネのバラ」を接ぎ木で増やして、各地の平和を願う学校や団体に贈呈しています。

マルチメディアセクション：様々な活動をビデオで撮影、記録したり、パソコンを使って紹介しています。